

1. 2024 年度事業報告総括表

		2020～2024 中期計画	計 画 事 項	事 業 報 告
公益事業 1	研究センター	渋沢栄一再考に向けての研究促進	①研究成果の出版	・渋沢栄一と「フィランソロピー」第4巻（福祉）刊行、出版記念学術シンポジウム実施 ・渋沢栄一と「フィランソロピー」第8巻（文化）研究会実施、執筆、編集 ・『論語と算盤』の英訳：英訳用の現代語訳を作成し、英訳開始
		啓発事業の企画・運営	②論語とそろばんセミナー	・「論語とそろばん」セミナー特別版をハイブリッド開催 ・『論語と算盤』読書会：第12期（オンラインと対面）、第13期（オンライン）を実施
			③協賛・助成・支援事業	・合本主義PJ『Ethics, Business and Capitalism---Thailand & Indonesia in an Asian Perspective』刊行 ・経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History 出版
公益事業 2	情報資源センター	社史プロジェクト	①実業史関連情報資源の開発・提供 ②ビジネス・アーカイブズの振興	・「渋沢社史データベース（SSD）」：更新、既搭載データ修正 ・「渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図」：追加2図、改訂10図、情報追加等63名称ほか ・「世界／日本のビジネス・アーカイブズ」：記事2本を『青淵』掲載・ウェブ公開 ・「ビジネス・アーカイブズ通信」：102～104号配信
		実業史錦絵プロジェクト	③実業史錦絵等の収集・情報資源化	・「実業史錦絵絵引」のシステム維持管理、渋沢栄一関連絵葉書のウェブ公開準備
		渋沢関連情報資源の開発	④渋沢栄一関連文献の情報資源化	・デジタル版『渋沢栄一伝記資料』：別巻・本編序文等をウェブ公開ほか ・「論語と算盤オンライン」：資料画像・出典記事等ウェブ公開、図書館総合展で関連フォーラム開催ほか
公益事業 3	渋沢史料館	展示活動	①常設展、企画展の実施	・常設展：「渋沢栄一を知る」コーナーの展示替え（近代的紙幣及び紙幣肖像となった人物との関わり） 日本銀行から贈呈された新一万円札「AA000005AA」番券を展示（7月～） ・企画展：「渋沢栄一肖像展Ⅰ」、「渋沢栄一肖像展Ⅱ」、「渋沢栄一と喜賓会」、「渋沢栄一と友情人形」
		普及活動	②渋沢栄一に関する教育普及活動の実施	・命日特別企画「青淵忌」：映像「故渋沢子爵葬儀の実況」の上映、谷中霊園墓参者への記念品配付など ・講座：「渋沢栄一をつたえる 飛鳥山邸のおもてなしから学ぶ」 ・シンポジウム：「<つたえる><つながる><つくる>博物館活動」 「日米親善人形交流100周年にむけて 渋沢栄一の遺産」 ・オリジナルグッズ(絵葉書、てぬぐい、カレンダー、マスキングテープ、アンブレラマーカー等)の制作、販売
		資料収集・保存	③資料収集、整理、代替資料の作成、 館内の環境維持	・渋沢市郎右衛門「藍玉送状之事」、橋本雅邦「御杉戸下絵」、「第五回内国勸業博覧会資料」等の購入 ・渋沢栄一喜寿三ツ組盃、貼交屏風、八十島樹次郎関係資料、渋沢敬三書簡等の受贈 ・「三字経」「第一国立銀行再建案草案」の複製制作、高村晃陽筆渋沢栄一像の修復等
		調査・研究	④渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動	・渋沢雅英氏のオーラルヒストリー、所蔵資料調査、穂積家寄託資料の整理 ・『渋沢史料館年報2022年度』『渋沢研究37号』『『徳川慶喜公伝』と渋沢栄一展示記録・講演録(改訂版)』 『渋沢栄一の言葉』企画展図録『渋沢栄一と喜賓会』等の刊行
	総務グループ	雑誌刊行	⑤「青淵」の刊行	・5月号（第902号）～4月号（913号）の刊行
		会員・支部支援	⑥会員総会の開催、支部講演会の支援など	・第220回会員総会・記念講演会「渋沢栄一翁と新日本銀行券」開催 ・海匠、野田、秋田、仙台、深谷、支部の講演会の支援
		関連事業	⑦他団体への協賛、後援、財団全体の広報、 デジタルキュレーションなど	・新一万円札発行記念「渋沢栄一 つたえる・つながる・つくる」取組み 特別展「愛と公益 渋沢栄一が目指した世界」開催、特設サイト公開、巡回展（6か所）で開催 シンポジウム「渋沢栄一『論語と算盤』の聖地で原点を学ぶ」等の共催3件 取組みに賛同する団体の事業への後援17件 ・渋沢・クロードル賞等への協賛3件

1-1. 公益事業 1（研究センター）

① 研究成果の出版

a. 『渋沢栄一と「フィランソロピー」』（全 8 巻）

第 4 巻（福祉）を 2024 年 11 月に刊行し、出版記念学術シンポジウムを 2025 年 2 月 20 日、国際文化会館（岩崎小彌太記念ホール）にて対面形式で 73 名の参加者を得て実施した。

最終巻となる第 8 巻（文化）については、執筆者 11 名（うち当財団役職員 3 名）で研究会を実施し、執筆、編集作業を進めた。2025 年度に刊行し、出版記念学術シンポジウムをシリーズの総括となる内容で実施予定。

b. 『論語と算盤』の英訳

『論語と算盤』を通して日本のビジネス社会の考え方、日本の資本主義のあり方や経済・経営思想を主に日本企業に勤める外国人や海外の研究者を対象に、また、グローバルに周知することを目的に、2030 年度までの刊行を目指す。2022 年度から開始し、中国古典に精通する守屋淳氏（作家）が英訳のための現代語訳を刊行し、第 1 章まで英訳した。

② 論語とそろばんセミナー

a. 「論語とそろばん」セミナー

新一万円札発行を記念し特別版として、「お金の本質と一万円札の肖像の意味を考える——福沢諭吉から渋沢栄一へ」をテーマに、2 つの講演と座談会で構成し、2019 年度以降初めて対面形式で東京商工会議所（東商渋沢ホール）にて実施し 200 名の参加者を得た。また、2025 年 1 月 10 日～3 月 31 日までアーカイブ配信を行い、451 名の視聴者を得た。

講演 1 田内学氏（社会的金融教育家、作家）：貯蓄や投資が重視されがちな現代の経済において、お金があれば全てが解決するのか？という問題提起から、実態は「お金を払う人」と「お金を受け取って働く人」によって経済システムが成り立っていることを説き、「人」や「公益」に着目した渋沢栄一の思想と同じく、現在や未来の生活のために働く「人」に投資する重要性が語られた。

講演 2 田中一弘氏（一橋大学教授）：著書『先義後利の経営——渋沢栄一が求めた経済士道』（有斐閣）にあるとおり、渋沢栄一は 100 年以上前から「公益の増進」を思想の核心とし、「道徳経済合一（義理合一）」という言葉で道徳と経済は一致すると説いた。これを受けて、実業界の王道と覇道を対比、検討し、現代社会における企業のあるべき姿を示された。

座談会 田中一弘氏、都倉武之氏（慶應義塾福沢研究センター准教授）、井上潤（当財団理事）：長きにわたり一万円札の肖像だった福沢諭吉と新しい肖像の渋沢栄一にフォーカスし、両者の関りについて語られた。国際社会での活躍を見据えた福沢の「個人」の概念や、「社会」に付加価値を与えることを意識した渋沢のお金の使い方など、一見すれ違って見える両者の思想は根源的に道徳の概念で結びついていることが明らかにされた。

b. 『論語と算盤』読書会

渋沢栄一著『論語と算盤』を毎月 2 章ごと読み進め、参加者同士でディスカッションを行うもので、第 12 期は、オンライン、対面とそれぞれの形式による実施を望む声が強かったことから、第 11 期に続き、約 1 年（11 回）かけて行ってきた読書会を半年（6 回）に 2 分割し、オンライン形式を 2023 年 9 月～2024 年 2 月まで参加者 28 名（うち修了者 19 名）で実施、対面形式を 2024 年 2 月～2024 年 7 月まで参加者 28 名（うち修了者 20 名）で実施した。

第 13 期は新一万円札発行による申込みの増加を見込み、より多くの人数に対応できるオンライン形式のみとし、2024 年 8 月～2025 年 7 月（全 11 回）まで参加者 38 名で実施中。

c. 経営者インタビュー

「新しい時代の渋沢栄一」を守屋淳氏（作家）が経営者の取り組みや活動に見出すインタビュー。2024 年 5 月、自身の活動が「論語と算盤」に触発されたと語る、伊藤和真氏（株式会社 PoliPoli 代表取締役／CEO）をお招きして実施し、「青淵」2024 年 9 月号に掲載。

③ 協賛・助成・支援事業

支援事業

合本主義プロジェクトシリーズ最終巻『Ethics, Business and Capitalism---Thailand & Indonesia in an Asian Perspective』の刊行。

経営史学会紀要の英語版 Japan Research in Business History の出版。

1-2. 公益事業 2（情報資源センター）

① 実業史関連情報資源の開発・提供

a. 渋沢社史データベース（SSD）

渋沢栄一が関与した企業を中心に各社の「社史」の内容を、目次・索引・年表・資料編といったデータから検索できるようにするもので、渋沢栄一の事績に加え、渋沢を取り巻く実業界などの情報を現代に至るまで搭載。2024 年度は関連会社である群馬銀行の社史データなど約 11,000 件を追加するとともに、既収録資料編データのうち、121 冊分、5,507 件のデータの差し替え、修正を行い、収録社史は 1,636 冊、総データ数は約 254 万件に拡充した。また、国立国会図書館令和 6 年度レファレンスサービス研修「経済社会情報の調べ方一応用編一」で教材として活用された。

b. 渋沢栄一関連会社名・団体名変遷図

渋沢栄一が関与した企業や団体の現在に至る変遷をチャート図により視覚化し、現代社会とのつながりを明確にするもの。2024 年度は興信所と雑誌の 2 図を追加し、前年度に引き続き渋沢関連事業の継承について再検討を行い、銀行、生命保険、労使協調、実業教育等の計 10 図を改訂するなど、情報のアップデートを行った。

② ビジネス・アーカイブズの振興

企業におけるアーカイブズ活動は企業倫理の確立に寄与するという考え方をもとに、渋沢栄一の「道徳経済合一」の理念を現代の企業経営に活かすことを目的とするもの。

a. 「世界／日本のビジネス・アーカイブズ」

企業に眠る渋沢栄一関連資料の発掘を目的に、渋沢栄一関連会社である株式会社帝国データバンクと東京海上日動保険株式会社のアーカイブズ担当部門に記事執筆を依頼し、『青淵』と財団ウェブサイトに掲載した。

b. メールマガジン「ビジネス・アーカイブズ通信（BA 通信）」

企業史料管理とビジネス・アーカイブズに関する海外情報を分かりやすい形で紹介するもので、2024 年度は 102 号から 104 号の 3 回の配信・ウェブサイト掲載を行った（3 月末の購読者数：944 名）。欧米の行事や文献などを紹介するほか、国際アーカイブズ評議会ビジネス・アーカイブズ部会（ICA/SBA）や日本の企業史料協議会など関係諸団体の最新動向を発信した。

c. 関連団体での活動ほか

昭和女子大学大学院 生活機構研究科生活文化研究専攻主催講演会「企業アーキビストへの多様な道とその仕事」に登壇し、渋沢栄一の経済倫理や情報資源センターのビジネス・アーカイブズ関連事業等について講演を行った。また、同校の学部教育ではビジネス・アーカイブズ関連コンテンツ「企業史料ディレクトリ」が教材として活用された。

③ 実業史錦絵等の収集・情報資源化

渋沢敬三の「日本実業史博物館」構想による収集資料中、際立って特徴的な錦絵や、その後継資料となる絵葉書という視覚的な資料に焦点を当てるもの。2024 年度は「実業史錦絵絵引」のシステムの維持管理および実業史関連絵葉書コレクションの公開準備を進めた。

④ 渋沢栄一関連文献の情報資源化

a. デジタル版『渋沢栄一伝記資料』『渋沢栄一ダイアリー』『渋沢栄一フォトグラフ』

デジタル版『渋沢栄一伝記資料』を更新し、別巻第 1～第 10、本編の序文・凡例・刊行事歴等を新たに公開した。これで全 68 巻中の 67 巻をデジタル公開することができた。また、資料ごとに「著作権ステータス」を表示して二次利用しやすくなるようにした。

「渋沢栄一フォトグラフ」のサブサイト「みんなで古写真【渋沢栄一伝記資料】」は、市民参加型のシステム構築とその先進性が評価され、デジタルアーカイブ推進コンソーシアム（略称 DAPCON）「2024 デジタルアーカイブ産業賞」の「奨励賞」を受賞した。

b. 『論語と算盤』再版（東亜堂書房、1916.09）のデジタルアーカイブ化

2023 年度に開設した「論語と算盤オンライン」に、東亜堂書房版『論語と算盤』（再版）のデジタル画像を公開する「画像で読む」、各章ごとに特徴的なキーワードを抽出しわかりやすく視覚化した「ワードクラウドで探す」、出典記事を公開する「出典を読

む」を追加した。また、「第 26 回図書館総合展 2024」では田中一弘氏（一橋大学教授）をお招きしてフォーラム「『論語と算盤オンライン』を使ってみよう！」を開催したほか、TEI 協会東アジア／日本語分科会主催 DH シンポジウム「図書資料の構造化：研究データとしてのテキストデータ構築」やアートドキュメンテーション学会デジタルアーカイブサロン／歴史家ワークショップ共催「第 157 回デジタルアーカイブサロン」などで発表、記事執筆を行い「論語と算盤オンライン」の普及・活用促進を図った。

c. 『渋沢栄一伝記資料』の網文英訳

渋沢栄一関連情報の国際的な発信の充実・強化を目指し、『渋沢栄一伝記資料』第 1 巻から第 11 巻に続き、第 12 巻の網文を英訳してウェブサイトで公開した。

d. ウェブサイトおよび『青淵』等での情報発信

「曾孫が語る渋沢栄一」には「岩崎弥太郎と渋沢栄一」の英訳「Iwasaki Yatarō and Shibusawa Eiichi」を追加。『青淵』連載中の「わがまちの渋沢栄一」には「津田塾大学」「北里柴三郎とのゆかりの地を歩く」など記事 4 件を掲載し、ウェブサイトにはリンク等を追加して公開するほか、「情報資源センターだより」で『論語と算盤』関連情報等を発信した。

e. 参考文献資料の拡充など

渋沢栄一・実業史関連文献等 222 点を収集したほか、書誌データ 1,575 点を作成し、資料 1,567 点分を蔵書データベースへ登録した。作成データから「渋沢栄一関連文献」新着リストに 1,591 件の情報を掲載し、情報資源の基盤強化と財団内での共有を図った。また、資料保存対策として 71 点の文献資料を専用の保存箱（ISO 16245:2009、ISO 9706:1994、ISO 18916:2007 準拠）に収納、あわせて収蔵庫・書庫の安定的な保存環境の整備を目指した。その他、機関リポジトリの公開準備、財団内外からの各種レファレンス対応、人文情報学関連イベントでの登壇を含むセミナー・学会への参加・聴講などを行った。

1-3. 公益事業 3（渋沢史料館・総務グループ）

渋沢史料館の入館者数は、新一万円札が発行された影響もあり、昨年度の 2 倍近く、58,542 名となり、1982 年に開館して以来、最多記録を更新した。

① 常設展、企画展の実施

a. 常設展

常設展示「渋沢栄一を知る」は、4 月から新一万円札発行を記念して、栄一と近代的紙幣ならびに聖徳太子、福沢諭吉、津田梅子および北里柴三郎ら紙幣肖像となった人物との関わりを紹介する展示を行った。

新紙幣発行の翌日 7 月 4 日、日本銀行から受贈した新一万円札「AA000005AA」番券の展示および公開記者会見を常設展示室で開催し、一般公開を行なった。

2024 年 12 月末より 2025 年 2 月初まで、「手紙にみる幅広い交流 穂積陳重と歌子夫妻の手紙」をテーマに栄一に宛てた陳重と歌子の書簡に加え、新収資料の渋沢・尾高両家の人々の江戸時代より近代にかけての漢詩と和歌を中心に構成された貼交屏風の展示を行った。

b. 企画展

2024 年 2 月より一部展示替えの上、再開した企画展「渋沢栄一肖像展Ⅰ 肖像写真」を 6 月初まで開催し、当館が所蔵する初公開を含む栄一の「肖像写真」約 50 点を取り上げ、栄一の「顔」を伝えた。6 月末～11 月には、企画展「渋沢栄一肖像展Ⅱ 造形作品」を開催し、絵画、彫刻、貨幣、切手など、栄一の姿を写した造形作品を取り上げ、さまざまな栄一像を伝えた。なお、新一万円札発行日が 7 月 3 日と公表されたことを受けて、予定していた開催日を急遽早めた。上記の両企画展の会期中、毎月第 1・第 4 土曜日に館長による「かお見世トーク」を実施し、栄一の多様な姿を伝えた。

2025 年 2～5 月にかけて企画展「渋沢栄一と喜賓会—明治時代のインバウンド—」を開催した。外国人観光客誘致と旅行者支援を目的に設立された喜賓会の活動とともに、栄一がどのような思いで事業に尽力したのかを探る展示を実施した。

また、2025 年 2～3 月にかけて「渋沢栄一と友情人形」を開催した。

② 渋沢栄一に関する教育普及活動の実施

渋沢栄一を学べる博物館として幅広い層を対象に各種の普及活動を行った。

a. 青淵忌

渋沢栄一の命日（11 月 11 日）を記念し、特別企画「青淵忌」を開催し、入館無料とした。当日、史料館にて映像「故渋沢子爵葬儀の実況」の上映を館長による解説付きで行い、谷中霊園にて渋沢栄一の墓所に墓参された 118 名に記念品をお渡しした。

b. 講座

7 月 7 日、講座「渋沢栄一をつたえる 飛鳥山邸のおもてなしから学ぶ」を青淵文庫において開催した。株式会社虎屋と共同で、明治 38 年の飛鳥山邸での茶会の際に栄一が供した菓子嚢を製作、ノベルティとして参加者に配付し、同社虎屋文庫上席研究員 森田環氏の講演および森田氏への副館長によるインタビューにより、同茶会をはじめ、栄一が飛鳥山邸にお迎えしたお客様や「おもてなし」の様子を伝えた。

10 月 6 日、企画展「渋沢栄一肖像展Ⅱ」関連シンポジウム「＜つたえる＞＜つながる＞＜つくる＞博物館活動」を開催した。当館の企画展にご後援いただいた博物館が実施した新紙幣にまつわる企画展等の事例を館の特色とともに紹介し、資料のデジタル化の話とともに、博物館活動の魅力を伝えた。

10 月 13 日にはシンポジウム「日米親善人形交流 100 周年にむけて 渋沢栄一の遺産—21 世紀へ：子ども・移民・共生・平和—」を開催し、日米人形交流事業の記録映像「Doll Messengers of Friendship」（1927 年）の上映会と是澤博昭氏（大妻女子大学教授）、宮崎広和氏（ノースウェスタン大学教授）、荒川史康氏（インディアナ大学准教授）、渋沢田鶴子（当財団理事）、副館長が登壇した。

c. 「渋沢史料館のご案内」パンフレット、ディスカバリーシートの作成

「渋沢史料館のご案内」パンフレットを刷新し、3 種（入館者配付〈日本語・英語〉、館外宣伝用）を制作した。また、ディスカバリーシート vol.7「暖依村荘」を制作した。

d. オリジナルグッズの制作・販売

「渋沢栄一肖像ポストカード」（4 種／増刷）、「青淵文庫紋様てぬぐい」、「渋沢史料館カレンダー 2025」、「マスキングテープ」（2 種）、「アンブレラマーカー」（3 種）などのオリジナルグッズを制作、販売した。

e. 外部講演・資料提供など

新一万円札発行を記念して開催された読売プリントメディア東京北工場イベントでの講座（テーマ「洋紙文化の礎を築いた渋沢栄一」）、日本女子大学生涯学習センター公開講座（テーマ「造形作品にみる渋沢栄一 栄一像の魅力と制作」）、北とぴあ事業（テーマ「渋沢栄一を知ろう！～飛鳥山のお宅拝見～」）、北区立堀船中学校アントレプレナーシップ教育講話会など、自治体、小学校、中学校、大学、博物館、企業、新聞社その他団体による講演会、講座の講師を 34 件担当した。

また、セイコーミュージアム銀座 2024 年度企画展「服部金太郎と渋沢栄一～二人が目指した近代日本～」に資料提供などで協力、あわせて会期中に開催された記念講演会で講師を担当した。

2025 年度に開館予定の一般社団法人古河市兵衛記念センター足尾銅山記念館常設展示等に資料提供などで協力した。

共催で開催した万博学会の研究会合、コロタイプ技術の保存と印刷文化を考える会のコロタイプ研究会において報告、講演を担当した。

そのほか、テレビ、ラジオなどメディアへの出演も多数行った。

f. その他

北区立赤羽岩淵中学校 2 年生、2 名の職場体験の受け入れを予定していたが、同校の学級閉鎖のため中止となった。

③ 資料収集、整理、代替資料の作成・収蔵庫内の環境維持

渋沢市郎右衛門「藍玉送状之事」、橋本雅邦「御杉戸下絵」、「第五回内国勸業博覧会資料」、栄一、徳川慶久、下村観山らの書画帖「游神帖」、「澁澤男爵演説傍聴券」、穂積陳重関係資料、書籍などを購入した（19 件）。

また、栄一に関する資料（渋沢栄一喜寿三ツ組盃、渋沢・尾高両家の人々の漢詩や和歌を中心に構成された貼交屏風、八十島樹次郎関係資料、渋沢敬三書簡など）を受贈し、所蔵資料の充実を図った。

写真や美術工芸資料の整備では、渡辺長男作渋沢栄一胸像、友情人形、兜町邸旧蔵卓子、晩香廬長椅子など家具類、国際親善人形関係資料などを撮影しデジタル化を進めた。

常設展の展示資料で代替資料がないものについて、今年度は、複製 2 点（「三字経」「第一国立銀行再建案草案」）を制作した。

高村晃陽筆渋沢栄一像の資料修復を行ない、渋沢栄一像（旧渋沢庭園）の保守作業を実施した。

収蔵庫・書庫・展示室などの虫・黴対策として、館内環境調査や収蔵庫・書庫の特別な清掃を専門業者に委託して実施し、環境の維持に努め、新規収集資料などの燻蒸を行った。

晩香廬、青淵文庫については動態保存に努めた。

④ 渋沢栄一関係や博物館活動の調査研究活動

渋沢雅英（当財団相談役）のオーラルヒストリーおよび所蔵資料の調査ならびに穂積家寄託資料の整理を実施した。企画展「渋沢栄一と喜賓会」展、2025 年開催予定の「青淵文庫 100 周年」展（仮題）、2027 年開催予定の「日米親善友情人形 100 周年」展（仮題）の調査研究、打合を行なった。

渋沢史料館の事業報告とあわせて学芸員の調査研究成果を示す論稿、展示記録などを掲載する『渋沢史料館年報 2022 年度』や外部の研究者との研究会の紀要である『渋沢研究』第 37 号を刊行した。また、『「渋沢栄一肖像展Ⅱ」関連シンポジウム「くつたえるくつながるくつくる」博物館の活動 記録集』、『渋沢史料館 収蔵品展『徳川慶喜公伝』と渋沢栄一展示記録・講演録（改訂版）』、渋沢雅英編著『渋沢栄一の言葉』、企画展図録『渋沢栄一と喜賓会—明治時代のインバウンド—』を刊行した。

全国の博物館・資料館への展示協力、外部メディアへの資料協力や助言、様々な年代の方々から幅広い内容の栄一に関わる問い合わせ対応を行なった。また、所蔵資料貸出等のデジタル対応について検討を行なった。

⑤ 『青淵』の刊行

竜門社会員向けの機関誌である『青淵』は 1949 年から刊行しており、2024 年度も毎月、発刊した。

2024 年 5 月号（902 号）～2025 年 4 月号（913 号）：発行部数：3,000 部/月

⑥ 会員総会の開催、支部講演会の支援など

a. 会員総会

第 220 回 会員総会を開催し、会員 52 名が出席し、事業報告の概要を説明した。閉会后、一般参加者も含め、137 名が出席するなか、新一万円札発行の時機をとらえ、大津俊哉氏（国立印刷局理事長）をお招きし、「渋沢栄一翁と新日本銀行券」と題し、記念講演会を開催した。

日 時：2024 年 7 月 29 日 17:00～17:40（会員総会）
18:00～19:30（記念講演会）

会 場：日本工業倶楽部 3 階 大ホール

b. 支部の状況（2025 年 3 月末現在）

支部名	個人会員数	団体会員数
野 田	24	0
深 谷	192	23
岡 谷	2	0
京 都	4	5
仙 台	8	8
酒 田	6	0
秋 田	32	2
茨 城	23	3

支部名	個人会員数	団体会員数
香 取	2	0
宇都宮	15	0
小 諸	0	1
氷 見	1	0
山 形	1	0
盛 岡	3	2
海 匝	31	4
白 河	3	2
16 支部	347 人	50 団体

c. 支部講演会

支部名	開催日	講演内容
海 匝	2024.4.24	「光る日本 米国選挙の年に考える」 講師：木村昌人氏（東アジア文化交渉学会評議員）
野 田	2024.8.22	「熟達論 人はいつでも学び、成長できる」 講師：為末大氏（元陸上選手）

秋 田	2025.1.27	「2025 年の秋田の経済展望」 講師：片桐大地氏（日本銀行秋田支店長）
仙 台	2025.2.19	「箱根駅伝から学ぶ成長する為の秘訣」 講師：原晋氏（青山学院大学陸上競技部長距離ブロック監督）
深 谷	2025.2.24	「次世代に語り継ぐ『論語』の世界」 講師：安岡定子氏（安岡正篤記念館理事長）

d. 維持会員数・会費収入

（会費収入は千円単位）

年度末	個人会員		団体会員			会費収入 合 計
	人 数	会費収入	社 数	口 数	会費収入	
2022	1,194	5,910	247	1,266	12,735	18,645
2023	1,130	5,535	241	1,261	12,640	18,175
2024	1,054	5,313	235	1,252	12,640	17,953

e. 寿杖

1923 年 4 月 29 日の第 69 回春季会員総会で、満 83 歳の渋沢栄一に第 1 号の杖を贈呈したことに始まり、80 歳以上で申込み頂いた個人会員を対象に「寿杖」を進呈（費用の一部を本人負担）しており、2024 年度は 1 名に進呈。累計で 2,096 本となった。

⑦ 関連事業・広報活動

a. 関連事業

イ. 新一万円札発行記念「渋沢栄一 つたえる・つながる・つくる」取り組み

- (i) 特別展「愛と公益 渋沢栄一が目指した世界」をヘラルボニーと共催で実施し、年齢・職業など、多様な属性の来場者 36,500 名を迎え、幅広い層に渋沢栄一の言葉を伝え、トークイベントでは焦点を当てた若年層 122 名の参加を得た。

会 期：2024 年 7 月 2 日～7 月 15 日

会 場：代官山 蔦屋書店 2 号館 1 階 建築デザインフロア

トークイベント：第 1 部

日 時：7 月 6 日 15:00～16:00

ゲスト：山下完和氏（やまなみ工房施設長）、渋沢田鶴子（当財団理事）

MC：竹田芳幸氏（コピーライター）

トークイベント：第 2 部

日 時：7 月 6 日 16:30～17:30

ゲスト：又吉直樹氏（お笑い芸人）

松田崇弥氏（ヘラルボニー代表取締役 Co-CEO）

MC：小川紗良氏（文筆家・映像作家・俳優）

- (ii) 特別展「愛と公益 渋沢栄一が目指した世界」の巡回展を以下の 6 か所で、各会場を管理する法人の協力を得て実施した。

清水建設温故創新の森 NOVARE	7 月 29 日～8 月 9 日
深川東京モダン館	11 月 2 日～11 月 17 日

清和綜合建物エントランススペース	12 月 16 日～1 月 16 日
板橋区立中央図書館	2 月 1 日～2 月 27 日
東京商工会議所 1 階多目的スペース	2 月 4 日～2 月 14 日
深谷市役所	3 月 17 日～4 月 4 日

- (iii) シンポジウム「渋沢栄一『論語と算盤』の聖地で原点を学ぶ」を毎日新聞社と当財団で主催し、講師に栗山英樹氏（北海道日本ハムファイターズチーフ・ベースボール・オフィサー）、出雲充氏（ユウグレナ代表取締役社長）と朝倉祐介氏（アニマルスピリッツ代表パートナー）をお招きし、パネルディスカッションでは特別協賛、協賛の各社の経営者から各社の事業に渋沢栄一の教えがどのように息づいているかについて語られた。

日 時：2024 年 7 月 1 日 13:00～16:30

会 場：清水建設温故創新の森 NOVARE

後 援：東京商工会議所

特別協賛：清水建設

協 賛：澁澤倉庫、東京海上日動火災保険、東京ガス、みずほフィナンシャルグループ

協 力：セイコーグループ

- (iv) 故五百旗頭真先生記念シンポジウム「『日米中関係をどうするか』—「日米同盟」と「日中戦略的互惠関係」の展望—」を温故創新の会、アジア調査会、中国研究所、日中アジア経済戦略論壇と当財団で主催した。

日 時：2025 年 3 月 6 日 13:00～16:30

会 場：日比谷コンベンションホール（日比谷図書文化館地下大ホール）

- (v) 新一万円札発行記念「渋沢栄一 つたえる・つながる・つくる」取り組みへの賛同団体の各事業を後援した。

（五十音順）

朝日新聞社	朝日新聞ガイドウォーク企画：新一万円札発行記念第 2 弾 桑原史料館長が語る渋沢栄一／深川のゆかりの地を訪ねて
宗教法人 恵那神社	渋沢栄一展
オーベクス株式会社	名刺、封筒、渉外ギフト、渉外ノベルティに当財団の取組みのシンボルマークを使用
神田京子大独演会実行委員会	芸歴 25 周年 神田京子大独演会関連事業～渋沢栄一伝を新一万円札にちなんで 1 万人に伝えるプロジェクト～
一般社団法人江東区観光協会	企画展「深川福住町四番地」
株式会社佐藤総合計画	小冊子：『渋沢栄一が見つめた社会、佐藤総合計画が切り開く未来』刊行
せいえん寄席実行委員会	せいえん寄席～新紙幣発行記念スペシャル公演～
セイコーミュージアム銀座	企画展「服部金太郎と渋沢栄一 ～二人がめざした近代日本～」

地域間交流による人材育成プロジェクト実行委員会	地域【長岡・井原・深谷】交流による人材育成プロジェクト
千葉県旭市教育委員会生涯学習課	新一万円札発行記念イベント渋沢栄一メモリアル
帝国データバンク史料館	テーマ展示「渋沢栄一と信用調査業」
株式会社帝国ホテル	渋沢栄一新紙幣記念企画展示
東京ガス株式会社 がすてなーに ガスの科学館	特別展示「東京ガスの生みの親 渋沢栄一」
東京商工会議所	渋沢セミナー「百会長と呼ばれた阪谷芳郎の生涯・渋沢栄一との奇縁を受けて」
東京都立中央図書館	企画展示「北里柴三郎と新しいお札の偉人たち」
株式会社ぷらっとマルシェ	せいえん寄席～滝野川八幡神社に春がきた～
無心庵再興プロジェクト準備室	飛鳥山大茶会～無心庵再興プロジェクト 2024～

ロ. 第 23 回 渋沢栄一賞

(主催：埼玉県・深谷市・当財団)

多くの企業の設立や育成に携わる一方で、福祉や教育などの社会事業にも尽力した渋沢栄一の生き方や功績を顕彰するとともに、今日の企業家のあるべき姿を示すため、渋沢栄一の精神を今に受け継ぐ全国の企業経営者に贈るもの。

受賞者	須崎勝茂氏（株式会社丸沼倉庫 代表取締役社長） 鈴木興平氏（鈴木株式会社 代表取締役会長） 森光孝雅氏（株式会社八天堂 代表取締役）
-----	--

ハ. 第 36 回 アジア・太平洋賞

(主催：毎日新聞社・アジア調査会、協賛：当財団・他)

アジア・太平洋地域の政治、経済、外交、社会、文化などについて優れた著書を発表した研究者や実践者に贈るもの。表彰式は 2024 年 11 月に出版クラブホールにて実施。

大賞	岩谷将氏（北海道大大学院公共政策学連携研究部教授） 『盧溝橋事件から日中戦争へ』
特別賞	林采成氏（立教大経済学部教授） 『健康朝鮮—植民地のなかの感染症・衛生・身体』
特別賞	河西陽平氏（中曽根康弘世界平和研究所研究員） 『スターリンの極東戦略 1941—1950 —インテリジェンスと安全保障認識』

ニ. 第 41 回 渋沢・クローデル賞

(主催：日仏会館・読売新聞社、協賛：帝京大学・当財団、後援：在日フランス大使館)

日仏会館の創立者である渋沢栄一とポール・クロードルを記念し、日仏両国において、それぞれ相手国の文化に関してなされた若手のすぐれた研究成果に対して贈るもの。第 41 回は、日本側の表彰式・受賞記念講演会は 2024 年 7 月に日仏会館にて実施。フランス側の授賞式は 2025 年 2 月にパリ日本文化会館にて実施。

日本側 本賞	谷口良生氏 『議会共和政の政治空間 ーフランス第三共和政前期の議員・議会・有権者たち』
日本側 奨励賞	神崎舞氏 『ロベール・ルパージュとケベック ー舞台表象に見る国際性と地域性』
フランス側	エリーズ・ヴォワイヨ氏 「「写真売ります！」日本写真における 1968 年以降のラディカリズム再考ーワークショップ写真学校 (1974-1976) の場合」(博士論文)

ホ. 第 11 回渋沢栄一クイズラリー

(主催：王子飛鳥山界隈いい店&老舗の会、協賛：当財団)

渋沢栄一の「地域が元気でなければ国自体は元気にならない」の考えを基に行われるイベントで、渋沢栄一と王子飛鳥山地域について学ぶ機会の創出と地域活性化を目的としたもの。王子飛鳥山地域の店舗、公共施設等 27 か所に設置されたクイズに回答し、全問正解すると「渋沢栄一マイスター認定証」と記念品を贈呈する。開催期間は 2024 年 11 月 3 日～12 月 25 日。授賞式は 2025 年 2 月に七社神社にて行われた。有効応募総数は 193 名、うち全問正解者数は 80 名。

b. 後援活動

- イ. 「渋沢栄一顕彰デジタルブック」(主催：板橋区)
- ロ. 渋沢栄一翁が関わった企業「百社一首」
(主催：埼玉工業大学人間社会学部情報社会学科 本吉裕之研究室)
- ハ. 「新一万円札の渋沢栄一と映画監督の小津安二郎」
(主催：歌で伝える歴史文化の会)
- ニ. 徳川家臣団大会 2024 (主催：徳川みらい学会)
- ホ. 「玉川碑再建 100 周年記念」展示会
(主催：伊豆見神社・狛江市教育委員会)
- ヘ. 第 3 回ものづくり大学教養教育センター特別講演会「埼玉学ー地域という『新しい教養』」(主催：ものづくり大学教養教育センター)
- ト. 渋沢栄一ひとづくりフォーラム 2024
(主催：渋沢栄一ひとづくりカレッジ)
- チ. 「朝日新聞ガイドウォーク企画：新一万円札発行記念 桑原渋沢史料館長が語る渋沢栄一／深川のゆかりの地を訪ねて」(主催：朝日新聞社)
- リ. 「みんなのぬり絵展：渋沢栄一翁と北区の伝統文化を感じよう」
(主催：認定 NPO 法人あいアイ)
- ヌ. 渋沢栄一翁生誕祭@北区 (主催：城北信用金庫)

2. 事業報告の附属明細

2024 年度事業報告には、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。